

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

標準化得点 国語A101以上 国語B100以上 算数A101以上 算数B102以上

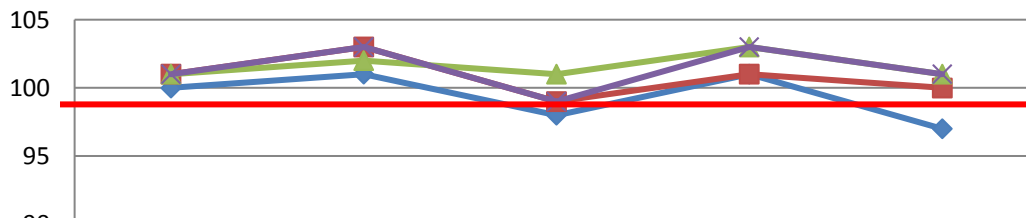
## 3.指標に向けての取組

- 指導方法の工夫(算数科のすべての単元における、T・T授業の実施)
- 学力調査問題、活用力診断テスト教材集、県学力調査フォローアップシート、個人・学級アシストシートの活用
- 補充学習(単元テスト70点未満児童の再テスト、教師3～5名体制による補充・朝の活動の実施)
- 主題研究の日常化を図り、授業に書く活動・交流活動を多く取り入れる。
- 家庭との連携による家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	97	100	101	101
嘉麻市	97	99	97	98
全国	100	100	100	100

## 推移



	26年実施	27年実施	28年実施	29年実施	30年実施
◆国語A	100	101	98	101	97
■国語B	101	103	99	101	100
▲算数A	101	102	101	103	101
✕算数B	101	103	99	103	101

## 5.各学校における分析

国語科Bについては、全国平均並。算数科については、A・Bともに全国平均を上回ることができた。これまでの取り組みの成果がある程度表れたものといえるが、国語科A問題を中心に以下のような課題も明らかになった。

### 【国語科A】

○ 領域別にみると、12問中8問出された「言語事項」の正答率が61.6%であり、全国平均を下回っていた。基礎・基本の取組の見直しが必要である。

### 【国語B】

○ 例年課題になっていた「記述式」の正答率が全国平均を8.5%上回ることができた。しかし、「選択式」の正答率が全国平均より5.6%下回る結果となり、引き続き活用力の育成が必要である。

### 【算数科A】

○ 領域別で見ると「図形」のみが全国平均より1.1%低くなっている。

### 【算数科B】

○ 評価の観点別に見ると「数学的な考え方」の正答率が53.1%、「知識・理解」の正答率が75%とどちらも4%程度高くなっている。

○ 「記述式」の正答率は52%と全国平均と比べ8.1%高くなっているが、問題により偏りがあった。今後とも表現力や思考力を育てる取り組みを充実させる必要がある。

## 6.各学校における今後の取組

### 【検証改善サイクルの実施】

○ 国語科A問題で特に正答率の低かった言語事項の問題について、朝の活動において補充を行う。

・言葉(MIM)タイム ・漢字タイムの確実な実施

○ 算数科のすべての単元におけるT・T授業の実施及び指導方法の工夫を今後も継続する。

○ 習熟度に応じた個別の支援や分割授業等を行っていく。

○ 主題研究の日常化を図り、授業に書く活動・交流活動を多く取り入れる。

・自分の考えを理由や根拠を示しながら書き、交流する。 ・条件付きの作文を書く。

・式の意味を書き、交流する。

・学習のまとめを自分の言葉で書く。

○ 現在の5年生には、今年度の課題への取り組みとともに、県学力調査の結果をもとに、フォローアップシートの活用を行っていく。

### 【家庭との連携】

○ 学力テストの結果の説明会を行い、これまでの取り組みとその成果、今後の課題を共有し、家庭学習の習慣化についての協力を求めていく。(家庭学習実施状況アンケートの実施)

○ 週末も含めた家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)の達成率90%以上を今後も目指していく。)

○ 土日の20分間読書の取組を推進していく。

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。

□ 嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。

□ 短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

□ 学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。

□ 指導と評価の一体化を図り、特に単元終末段階における習熟度別学習の充実を支援する。

□ 繰り返しの指導が計画的に実施されるよう、カリキュラムマネジメントを推進する。

□ 家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。

□ 主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。